

コリハス病院での引渡式 (令和8年7月15日)

令和8年7月15日、麻妻大使は、オクラン（Mr. Samuel Kweku Ocran）UNICEF ナミビア代表とともに、クネネ州コリハスに共同出張し、日本政府の拠出で UNICEF が調達した救命・必須医療器材をコリハス病院に正式に引渡しました。本機材は、令和6年度補正予算案件「ナミビアにおいて女性と子供に影響を与える自然災害や疾病発生の影響から、持続可能で改善された子供の生存開発を通じてレジリエンスを高めるためのシステム強化と環境整備」（実施期間：2025年2月～2026年2月、供与額：45万米ドル）において調達され、既に同院にて活用されていました。

コリハス病院へは、令和6年10月に西牧前大使とオクラン代表が共同で厳しい医療環境を確認し、その後、同院の医療環境改善のために支援が決定されていました。約1年10か月ぶりの訪問となった今回の訪問では、大幅な医療環境の改善を確認することができました。

デイ（Ms. Augusk Day）シニア登録看護師は、日本政府と UNICEF からの供与によって、同院に希望と尊厳がもたらされた、と謝辞が述べられました。UNICEF との連携を通じたナミビアの保健分野の支援は、日・ナミビアの二国間関係強化に大きく貢献しています。

